

口腔ケアの取り組み

施設名：老人保健施設 友愛園

発表者：神谷美恵子

「はじめに」

当施設には、入所者41名(H20.2.18現在)の殆どが寝たきりの状態で、胃瘻・経鼻留置者専門のフロアがある。胃瘻・経鼻留置者の場合、経口摂取されない分、口腔機能の低下、常時開口状態により、痰や唾液がこびりついており、誤嚥を防ぐ為にも日頃の口腔ケアは重要である。

今回は、口腔内の清潔を保ちつつ、口蓋、舌、口腔内全体の「ドライマウス(口腔乾燥)」に着目し、取り組んだ。口腔ケアの方法はさまざまであるが医療行為にあたらぬ(吸引等)介護のできるケアを考え、これまでの経緯と事例を踏まえて報告する。

「経緯」(これまでの口腔ケア)

これまでの口腔ケアの取り組みとして、

イソジンガーグルの使用

1日3回食前に、イソジンガーグルを水で薄めてガーゼを浸し、口腔内を清拭する方法。

残存歯がある方は、ブラッシング後にガーゼで清拭する。

結果 「イソジンガーグル」を使用することにより、口腔乾燥が強くなり、出血がみられ、痛がる入所者様、口臭が強くなった等の結果になった。そこで、改めて併設病院の歯科に相談した所、「イソジンガーグル」だと殺菌効果の作用はあるが、その反面、口の渇きも生じる事が分かった。

グリセリン液の使用

1日3回行なう内の1回に保湿効果があるといわれるグリセリン液を使用してみた。

「イソジンガーグル」は、殺菌効果作用はあるので朝のみ、継続使用した。

(朝) イソジンガーグル

(昼) 水のみ

(夕) グリセリン液

寝ている間、唾液の分泌が少なくなり細菌が繁殖しやすい環境になる為、保湿効果を持続させる為、夕食前に使用してみた。

結果 1日1回のグリセリン液使用では、まだ「口腔乾燥」の改善見られなく、大きな効果は得られなかった。

そこで、新たな取り組みとしてクロストレーニング研修で学んだ、口腔ケアの方法を当施設で取り組んでみた。

「取り組み」

オリーブオイル+緑茶の使用

保湿効果が持続するといわれるオリーブオイルと、殺菌効果、消臭効果があるといわれる緑茶を混ぜ合わせて使用してみることにした。

～スタッフ間での意見交換～

メリット

- ・ 緑茶を使用するので殺菌効果が得られそう
- ・ 保湿効果が得られそう
- ・ 口臭がなくなりそう

デメリット

- ・ オリーブオイル使用の為爽快感がなさそう

実際に、スタッフが試して使用してみたが、口の中が潤っている感じがするとの意見が多く聞かれた。

「方法」

専用容器に、オリーブオイル、緑茶共にさじの3杯、水を容器に500cc入れて混ぜる。そこにガーゼを浸し使用。

「事例」

M・A氏

顎脱臼により舌が常にでている状態。

その為、舌が乾燥状態になり口腔ケア時、乾燥部の皮がめくれ、出血して痛々しい。そこで約一ヶ月、取り組みの方法を実施してみることにした。

「結果」

舌の乾燥は、実施前より乾燥範囲は小さくなり皮剥けなどでの出血は少なくなった。

他入所者にも実施したが、唇の皮剥けが少なくなり、口腔内を潤すことで口臭を和らげることができた。さらに、M・A氏は入院を繰り返しており、病院にてオーラルバランスという口腔保湿・湿潤ジェルを使用していた。取り組みでの緑茶とオリーブオイルの口腔ケア後、このオーラルバランスを塗布したところ、短期間で乾燥状態はさらに改善された。

「まとめ」

今回「口腔乾燥」について取り組み、オリーブオイルと緑茶の活用で、口腔内を少しでも『潤す』ことに近づける事が出来た。『潤す』ことで、口臭予防・痰などの汚れも取り除きやすくなった。しかし、経口摂取出来ない分、口腔乾燥の問題は大きいと思う。

また、取り組み前のデメリットにもあげられた「爽快感」についても、今後スタッフ間で話し合い、利用者にとって少しでも心地よいと思われるケアを考え、提供していきたい。